

平成 28 年度 第 2 回学校関係者評価報告書

鳥取県立境学校

学校長 田淵 直記

評 価 日	平成 29 年 2 月 2 日 (木)	
評 価 ・ 提 言		学校の所見・改善策等
1. 今年度の自己評価について (1) 重点目標の達成状況 - アンケート結果について、生徒と教員の評価に開きが見られるが、どのように認識しているか。 - 保護者アンケートの授業に関する項目については、授業を実際に見ていただくようにしてはどうか。 - 英語学習について、境港市の小・中学校は英語教育を推進している。授業方法や技術（ICT活用を含む）を高校の教員から学ぶことができる機会をつくることで連携を深められてはどうか。 (2) 説明・公表について - 特に意見なし		1 への所見等 - 教員は例えば一人でも掃除が不十分な生徒がいると評価を厳しくする傾向がある。 - 公開授業に参加する保護者は少ない現状だが、日頃の授業についても公開を検討したい。 - 現在の小中高「英語スクラム教育」の取組で構築した連携をより深めていきたい。
2. 今年度の県立学校裁量予算による特色ある学校運営の状況について - 境高教育の中で、様々な事業が展開されていることが良く分かった。 - 境港市の特色のひとつである国際交流をすすめ、生徒が構外において学んだ英語等の言語を生かすことができる機会を提供すると良い。ただし、あいさつ程度ではなく、説明が出来るところまで力をつけることが大切である。 - 子どもたちの期待に応えることができる授業となるよう授業改革を進めてほしい。		2 への所見等 - 語学力向上プロジェクトの中で、生徒を鬼太郎ロード等に連れて行き、韓国語等で観光客を案内するような場を設定したいと考えている。 - 授業改革をとおした学力向上は、大切な視点と認識している。来年度も継続して授業改革を推進する。 - 来年度、グレードアップ学習会を実施し、地域の大人などが学ぶ姿を生徒に示していきたい。
3. 取組改善のための提言 - 教員が生徒と一緒にになって各事業に取り組むと「気づき」が生まれ、良い変化がおきるのでないかと考える。 - 英語多読や家庭科等で実施している外部人材（専門家）とコラボした授業をもっと多くの授業で実施することも授業改革につながる。 - 部活動指導では大きな成果が出ている。今度は学習面も大きな成果がでることを期待している。 - 生徒の成長にとっては、実体験を積み重ねることが有効である。失敗が次の成功につながることを教えてやってほしい。		3 への所見等 社会人講師の活用の拡大や、アクティブラーニングの推進を図るとともに、8限授業を充実させ授業改革も進めながら学習面での成果を出していきたい。

